

平成30年5月31日

(公社)埼玉県介護老人保健施設協会
会長 小川郁男 様

施設名 介護老人保健施設 瑞穂の里
氏名 小林 純一

研修会報告書

研修会名	第1回生活リハビリ研修			
日時	平成30年5月23日(水) 10:00~16:00			
会場	埼玉県民活動センター 210セミナー室			
講師	老健 遊 介護福祉士 神山 知子氏 / 老健 うらら 理学療法士 鈴木 康夫氏			
参加人数	36名			
研修委員 (氏名・施設名)	浦田 千恵(グリーンピア) 川崎 清史(ケアパーク江南) 津田 剛(グリーンビレッジ安行) 小林 永治(すみよし)	小林 純一(瑞穂の里)		
研修会のテーマ	生活リハビリとは 目的 : 「その人らしい」ケアのために、生活リハビリの理解を深める			
研修会の評価	アンケート回収枚数	36 枚	3. グループワーク	
	1. 研修内容と目的の一致	3.4 / 5	4. 研修会の進め方	
	2. 講義に対する評価	①	4 / 5	~総合評価点~
		②	4 / 5	
③		/ 5		
④		/ 5		
			4 / 5	
			3.7 / 5	
			19 / 25	

総
評

【反省会での内容】 第1回目の研修として、両講師の在籍している2施設での取り組み紹介を中心に「生活リハビリ」というリハ室以外で行うリハビリについて知って頂く目的で行いましたが、参加された介護職/リハ職を中心とした多くの方に理解して頂けたと思います。生活リハビリを提供するという老健の役割について学び、そこでは介護職とリハ職の協働(歩み寄り)が肝心であるという結論には多くの方が至りましたが、実際には職種間の隔たりや意識の違いがあったり、人手不足等の理由で「できていない」と悩んでいる施設が多く、グループワークでは各参加者が所属施設での現実や取り組みの難しさなどを意見交換していました。出来ていない現実から、ともするとお互いの職種への愚痴になりそうな所を、「人がいないからチャンス」「歩み寄りの差を認めてそこから1歩ずつ前へ」と視点を変えられたことは学びといえると思います。

今回の埼老健の研修テーマが「その人らしいケアを考える」なので、「その人らしさ」を引き出すためのアプローチを皆で考えました。アセスメント時の利用者様の生活歴・ニーズを共有する事、「未来」「卒業後」の姿をイメージしてそれに向かって個々の動作レベルに見合ったケア(生活リハ)を提供する事が必要であるとの結論に至りましたが、機能・動作訓練以外の「趣味・余暇活動」での具体例がどの施設も成功例が少ないのを議論を通じ実感しました。

講義①・②とグループワーク①・②で上記の様な内容となり、次回の研修に向けて何を学びたいかグループワーク③で何う形式をとりましたが、「次回参加できるかわからない」「1回で完結して欲しかった」という意見も頂き、「明日から使える知識」を期待されて来られた参加者に対しては少し物足りない内容となってしまったのかと感じ、次回開催時への留意事項となりました。

【委員としての感想】 運営自体は滞りなく行えたと思いますが、アンケートを見ると満足/不満足が分かれており、研修案内にて詳細な告知をすることで、行き違いなく更に満足頂けるものとなったのかと反省しています。

* アンケート結果の詳細については、別紙添付資料「研修会アンケートのまとめ」を参照。